

# 令和7年度 普及活動成果集

「多様な人材が躍動する  
魅力ある都市近郊農業を目指して！」



ふくおか就農基礎講座



水稲の育苗指導



金武いちご講習会



クルクマ研究会立毛品評会



「シャインマスカット」栽培講座



エコー検査による和牛肉質推定

福岡県福岡普及指導センター

令和8年3月

# はじめに

福岡・筑紫・糸島地域の農業者および関係機関の皆様には、日頃から福岡普及指導センターの活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

当センターでは、「福岡県農林水産振興基本計画(令和4年3月)」の目標である「稼げる農林水産業の実現、食と暮らしを支える農山漁村づくり」を目指し、市・JA等の関係機関をはじめ、指導農業士、青年農業士、女性農村アドバイザーの方々、さらに部会役員等の農家リーダーの皆様との連携・協力のもと、普及活動を展開しております。

さて、近年の気候変動は農業生産に大きな影響を与えております。令和7年度も6月から8月にかけて全国的に記録的な猛暑に見舞われた一方で、8月盆前には県北地域を中心に大雨となり、当管内でも糸島半島を中心に浸水被害が発生しました。

加えて、資材や飼料価格、人件費の高騰、労働力不足など農業経営を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあります。

このような状況を踏まえ、令和7年度は、「多様な人材が躍動する魅力ある都市近郊農業を目指して！」をスローガンに掲げ、2つのプロジェクト課題と12の係課題を設定し、28名の職員一丸となって普及活動に取り組んで参りました。

本冊子は、この一年間の主な活動成果や地域での新たな取組などをまとめたものです。ご一読いただければ幸いです。また、お気づきの点などありましたらご意見、ご指摘を賜りますようお願い申し上げます。

福岡普及指導センターは、今後とも農業経営の発展、管内農業・農村の振興に向けて全力で取り組んで参りますので、引き続き普及活動へのご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和8年3月

福岡農林事務所福岡普及指導センター長 横山 利幸

# 目次

## 1 普及活動の成果

【1】糸島市農業の次代を担う農業者の確保・育成と経営発展を支える体制整備	1
【2】気候変動に対応した生産体制と次代を担う農業者の育成	2
【3】都市近郊地域における新規就農者の育成・確保	3
【4】大豆・水稲における収量品質向上と環境に配慮した施肥体系の確立	4
【5】単収向上と担い手育成によるイチゴ産地の活性化	5
【6】担い手の確保による糸島花き産地の活性化	6
【7】糸島ブランドカンキツ安定生産による産地維持および若手生産者育成による産地強化	7
【8】飼料高騰に耐える新しい酪農経営体の育成	8
【9】肉用牛の生産力維持・強化	9

## 2 トピックス

【1】地域の農業振興について意見を交わす	10
【2】JA筑紫管内の農業者が鳥獣害対策について学ぶ	10
【3】水稲高温耐性品種を新たに導入!!	11
【4】大豆の収量増加を目指して	11
【5】糸島アスパラ部会、初の全戸巡回現地検討会を開催	12
【6】再生リン酸活用肥料「e・green」の有効活用方法の検証	12
【7】「シャインマスカット」栽培講座を開催!	13
【8】サンバエ防除対策の取組が拡大しています!	13
【9】第5回福岡県肉用種牛共進会にて最優秀賞を受賞!	14
【10】大規模施設園芸の挑戦と展望	14
【11】若い世代に食育について語る!	15
【12】地域で活躍する先進女性農業経営者に学ぶ!	15
【13】魅力ある農業を次世代へつなぐ	16
【14】櫛(くぬぎ)みかんオーナー園	16

## 3 資料一覧

【1】令和7年の気象概況	17
【2】令和7年度の主な展示ほの概要	18
【3】令和7年度普及指導センター現地活動情報一覧	20
【4】令和7年度表彰事業実績(国、県)	22
【5】普及指導センターの活動体制	23
【6】普及事業推進協力体制	24

# 1 普及活動の成果

## 【1】糸島市農業の次代を担う農業者の確保・育成と経営発展を支える体制整備

### 要約

糸島市は、都市近郊の立地と恵まれた農業環境を背景に、就農相談や新規就農者が多い地域です。新規に農業を始めるには農地取得や栽培技術の習得など、多くの段階を踏む必要があります。そこで普及指導センターは、関係機関と連携し、相談から定着までを一貫して支援する体制を整備しました。加えて、既存の地域農業の中核を担う若手農業者に対しては、経営の指針となる経営計画の策定支援や労働力確保のために雇用導入研修会を開催し、更なる経営発展に向けた支援を行いました。

### 対象の概況

新規就農者（R2～6）111名  
経営改善に意欲的な農業経営者  
JA糸島無料職業紹介所  
雇用導入に意欲的な農業者

### 活動の内容

1 新規就農者の確保・育成	
就農相談会	41回
就農計画作成支援	17回
JA糸島農業研修制度運営支援	5回
2 若い農家の経営力向上	
経営計画策定講座	3回
経営計画策定支援	20回
経営計画進捗管理支援	87回
3 経営発展を支える体制整備	
労務管理研修会	1回
雇用導入研修会	1回
JA糸島無料職業紹介所運営支援	3回



雇用導入研修会

### 成果

#### 1 新規就農者の確保・育成

	R6	R7	計
認定新規就農者数	6	4	10

営農計画の策定や技術習得を支援し、新たに10名の認定新規就農者を育成しました。また、農地や施設確保に向け、関係機関による情報のデータベース整備を開始しました。

#### 2 若い農家の経営力向上

・経営計画策定数 5経営体（R7）  
経営計画策定講座を開催し、新たに5経営体が経営計画を策定し、R6年度と合わせて10経営体となりました。また、既策定者の伴走支援を行い、14経営体が目標を達成しました。

#### 3 経営発展を支える体制整備

・新たに雇用導入した農家数 11経営体  
経営状況に応じた雇用タイプの導入を支援し、22経営体（R6～R7）が短期または常時雇用を導入しました。また、雇用導入研修会を開催し、変形労働時間制や関連法令の知識習得を支援しました。

### 今後の取組

関係機関と連携して、新規就農者の育成と、地域の中核を担う若手農業者の経営発展の両輪を支援し、糸島地域の更なる農業振興を図っていきます。

## 【2】気候変動に対応した生産体制と次代を担う農業者の育成

### 要約

近年、高温や乾燥などの異常気象により、農畜産物の生産量や品質は低下しています。そこで、気候変動の影響を軽減できる栽培・飼養技術について部門別に検討会を開催し、実証ほを設置してその技術確立を行いました。

さらに、次代を担う農業者を育成するために、経営の指針となる経営計画の策定支援や就農基礎講座などを開催し、経営安定および発展を後押ししました。

### 対象の概況

認定新規就農者（就農5年以内） 51名  
管内認定農業者  
管内各JAの部会等

### 活動の内容

- 1 気候変動に対応した生産体制の確立
  - 栽培管理技術の改善
    - 部門別検討会の開催 23回
    - 実証ほの設置 14か所
    - 改善栽培講習会の開催 98回
- 2 次代を担う農業者の育成
  - 若い農業者の経営力強化
    - 経営計画策定講座 3回
    - 経営計画策定支援 35回
    - 経営計画進捗管理・達成支援 17回
  - 新規就農者の早期経営安定
    - ふくおか就農基礎講座 5回
    - 就農計画達成支援 135回
    - 就農計画達成点検 1回



実証ほの一例

### 成果

- 1 気候変動に対応した生産体制の確立
  - 栽培（飼養）改善技術数 3事例
    - ・水稲「恵つくし」の栽培技術
    - ・株冷6型によるイチゴの花芽分化
    - ・遮熱材を利用したブドウの着色改善
  - 異常気象下でも安定生産が期待できる栽培（飼養）技術について実証ほを設置し、3つの技術を確立しました。
- 2 次代を担う農業者の育成
  - ・経営計画策定農家数 9戸
  - ・経営計画達成農家数 7戸
  - ・青年等就農計画目標達成割合 59%
  - 新規就農者を対象に就農基礎講座を開催し、植物の生理生態や土づくり等基礎技術の習得を支援しました。また、更なる経営発展を希望する農業者を対象に、経営計画の策定を支援しました。

### 今後の取組

次年度も引き続き実証ほを設置し、気候変動に対応した栽培・飼養技術の確立に取り組みます。

次代を担う農業者の育成については、新規就農者の育成と若手農業者の経営力強化を支援し、管内の更なる農業振興を図ります。

# 【3】都市近郊地域における新規就農者の育成・確保

～ 新規就農者の育成から早期経営安定に向けた支援 ～

## 要約

管内は、県内人口の約4割が集中する都市部に位置し、その地理的利点を活かした農業経営を目指して就農相談者数は増加傾向にあります。一方、新規就農者の経営が早期に安定するためには、栽培技術・経営管理手法の習得が重要です。

そこで普及指導センターでは、新規就農者の就農計画（5か年）の策定支援および就農後の栽培技術や経営管理指導を行いました。この結果、令和5～7年度に37名の新規就農者が青年等就農計画を策定しました。また、平成30～令和2年度の青年等就農計画策定者のうち、約6割の新規就農者が各々の経営目標を達成しました。

## 対象の概況

年度	R1	2	3	4	5	6
就農相談者(人)	34	50	69	98	97	158
新規就農者(人)	34	37	38	54	65	32

## 活動の内容（令和5～7年度）

- 新規就農者の確保
  - 就農相談 延べ351回
  - 就農相談会への参加 13回
  - 新規就農支援担当者会議 55回
- 新規就農者の経営安定支援
  - ふくおか就農基礎講座 14回
  - 若手生産者の技術指導 延べ628回
  - 開始資金交付者指導 延べ362回



ふくおか就農基礎講座の様子

## 成果

- 新規就農者の確保
  - 認定新規就農者：37名

年度	R5	6	7	計
認定新規就農者(人)	17	12	8	37

各地域にて関係機関(市・JA)と連携し、就農希望者の実情に応じた相談対応を行いました。また、経営指標等に基づく青年等就農計画の策定支援を行いました。

- 新規就農者の経営安定支援
  - 青年等就農計画最終年度の目標達成者割合：59%

(平成30～令和2年度策定者17名中10名達成)

定期的に関係機関と巡回するなど、目標達成に向けた支援を行いました。また、目標未達成の要因として、計画通りに農地の拡大ができなかったことがあげられ、農地確保が課題となっています。

## 今後の取組

就農希望者の実情に応じた相談対応および実効性の高い就農計画の策定支援を行います。また、新規就農者を対象とした基礎講座の開催や技術指導を実施し、早期の定着を支援します。

# 【4】大豆・水稲における収量品質向上と環境に配慮した施肥体系の確立

～ 気候変動に左右されない技術の確立 ～

## 要約

大豆生産において、JA筑紫管内では部分浅耕—工程播種の推進等により大豆の適期播種率が向上し、令和7年度の収量は昨年度を上回りました（暫定）。一方、JA糸島管内では原因不明の青立ちが発生し収量が低下しました。

水稲種子生産は、JA糸島において施肥や防除体系の見直し等により、夢つくしでは合格率が向上しました。JA福岡市では、環境に配慮した施肥体系を確立するため、再生リンを利用した基肥—発肥料の実用化に向けた試験を実施しています。

## 対象の概況

JA糸島大豆部会	(13名)	39ha
JA筑紫大豆生産者	(14名)	35ha
JA糸島採種部会	(11名)	20ha
JA福岡市赤とんぼ米生産者	(250名)	421ha

## 活動の内容

- 大豆の収量向上
  - 収量改善実証ほの設置 4か所
  - ふくよかまるの栽培特性の把握 糸島地区
  - 講習会及び現地指導 2地区×3回
  - 情報発信 随時
  - アクションプラン作成 2地区
- 水稲種子合格率の向上
  - 栽培講習会 1回
  - 試験ほの設置 3か所
  - 栽培暦の検討 1回
- 環境に配慮した肥料を用いた施肥体系の確立
  - 福岡市農業センター農産班会議の実施 7回
  - 新肥料試験ほの設置 12か所
  - 減農薬稲作シンポジウムでの成果発表 1回

## 成果

### 1 大豆収量の向上

適期播種率 (%) 2JA合算数値

基準 (R5)	R6	目標 (R7)	実績 (R7)
58.8	40.0	60	78.8

単収過去平均対比 (%) ※R7.12月時点

	基準 (R5)	目標 (R7)	実績※ (R7)
JA糸島	100	110	88
JA筑紫	100	110	95

### 2 水稲種子合格率向上（夢つくし）

水稲種子合格率（80%）

### 3 環境に配慮した肥料を用いた施肥体系の確立

環境に配慮した肥料導入面積（24.4ha）

## 今後の取組

大豆は適期播種率を維持するとともに、減収要因を解明し対応策を検討します。水稲種子は引き続き適期作業の徹底を指導するとともに、病害対策を周知します。また、肥料については関係機関と協議を進め、環境に配慮した基肥—発肥料を実用化し、普及拡大を目指します。

# 【5】単収向上と担い手育成によるイチゴ産地の活性化

～ 技術・経営の両面から支援を実施 ～

## 要約

高温対策として、新規作型（6型）の導入や育苗期のかん水および肥培管理等について重点的に技術指導を行うとともに、炭そ病対策として秋ランナーを用いた採苗の推進を行い、次年度の健全親株の確保に向けた支援を実施しました。

若手生産者や新規就農者に対しては、個別の課題改善や目標達成のため、栽培基礎講座や高収量者ほ場への現地訪問、アイカメラを用いた作業工程の見える化を図った結果、経営改善目標の達成者数は大幅に増加しました。

## 対象の概況

JA糸島いちご部会	87名
うち青年部	23名
新規就農者	2名
JA福岡市いちご部会	26名
うち青年部	17名
新規就農者	1名
JA福岡市東部いちご部会	20名
新規就農者	8名

## 成果

- 1 単収の向上
  - ・4.2 t/10a以上農家率  
27% (R6) → 38% (R7)
- 2 若手生産者の経営・技術力向上
  - ・経営改善目標達成者数  
23名 (R4) → 37名 (R7)

## 活動の内容

- 1 単収の向上
  - ・現地巡回 随時
  - ・技術検討会 8回
  - ・栽培講習会 9回
  - ・技術展示ほ設置 2箇所
- 2 若手生産者の経営・技術力向上
  - ・現地検討会、講習会 8回
  - ・スマート農業勉強会 1回
  - ・個別面談等による目標設定 1回
  - ・経営コンサル 2戸
  - ・イチゴ基礎講座 2回



アイカメラを用いて調製作業を見える化



イチゴ基礎講座の様子

## 今後の取組

現地巡回や講習会を中心に栽培技術の高位平準化を目指します。また、炭そ病については健全親株の確保および防除ローテーションの見直しを行う等防除対策を強化し、引き続き安定生産に向けた支援を行います。

# 【6】担い手の確保による糸島花き産地の活性化

～ 花き次世代担い手の確保・育成 ～

## 要約

県内有数の花き産地である糸島花き産地の維持・発展を目指し、将来を担う若手生産者等が設定した経営目標の達成に向けた伴走支援を行うとともに、部会や関係機関と連携して、新規栽培者の受入体制構築に取り組みました。

その結果、数名の若手生産者が目標を達成し、併せて、JA糸島農業研修生制度において新たに「花き」が追加され、受入体制が整備されました。

## 対象の概況

JA糸島花き部会 113名

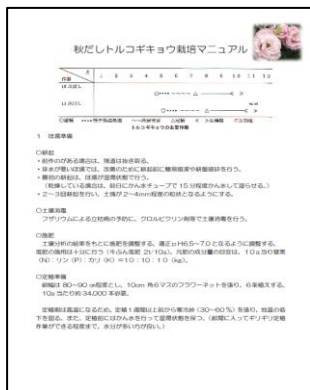
うち若手生産者 10名

うち新規就農者 2名

うち後継者 9名

## 活動の内容

- 1 次世代の担い手の経営安定
  - 経営目標設定 21名×1回
  - 巡回指導 随時
- 2 花き新規栽培者の受入体制の構築
  - 糸島農業計画会議花き班会議 6回
  - 花き新規就農プロジェクト会議 2回
  - 花き経営指標の作成 3品目
  - 栽培マニュアルの作成 3品目



秋だしトルコギキョウ栽培マニュアル

## 成果

- 1 次世代の担い手の経営安定
  - 経営目標達成者 2名  
若手生産者等を重点対象者として巡回指導により、技術・経営の両面から課題解決支援を行い、夏季高温や大雨、害虫多発の中、生産量や売上げの目標を達成しました。
- 2 花き新規栽培者の受入体制の構築
  - JA糸島農業研修生制度  
「花き」品目新規追加  
花卉部会員に対する生産意向等アンケートの結果を役員会にて共有し、新規受入を決定するとともに、糸島計画会議花き班にてトレーナーの選定やカリキュラムの作成を行いました。

## 今後の取組

若手生産者等には経営目標の達成に向けた伴走支援を継続します。  
また、花きの研修生を募集するとともに、研修後の就農に向けた手順等を整理します。

# 【7】糸島ブランドカンキツ安定生産による産地維持および若手生産者育成による産地強化

～ 糸島みかんを次世代へ繋ぐ ～

## 要約

糸島地域のカンキツは、高品質果実の有利販売を行っていますが、近年、部会員数や面積の減少、優良品種への円滑な更新や高温・過乾燥による隔年結果対策が課題です。

このため、優良品種の早期成園化支援、園地流動化による生産量の維持・拡大、若手生産者の技術力・経営力向上について重点指導を行いました。

その結果、優良品種の生産量は伸び悩んだものの、園地流動化のための体制整備やマッチング支援により、園地貸借が進みました。また、勉強会や経営計画策定の伴走支援により、若手生産者の技術力・経営力の向上が図られました。

## 対象の概況 (R5時点)

JA糸島柑橘部会 (73名) 52.3ha  
 うち「早味かん」「北原早生」生産者 (28名) 4.3ha  
 「甘夏」生産者 (29名) 7.6ha  
 若手グループ※ (15名) 18.8ha  
 (うち経営計画策定農家数 10名)  
 ※50歳未満

## 活動の内容 (R7)

- 優良品種の安定生産および拡大
  - 苗木定植園地の巡回指導 重点8戸×3回
  - 苗木育成マニュアル作成 1回
  - 展示ほの設置 2か所
- 園地流動化のための体制整備・強化
  - 園地意向調査の実施 1回
  - 園地流動化検討会 6回
  - 貸地希望台帳の作成、共有化 1回
  - 関係機関との定期会議 3回
- 若手生産者の経営力および栽培技術の向上
  - 経営や新技術に関する勉強会 2回
  - 経営計画のブラッシュアップ、フォローアップ 6戸



園主意向調査の様子

## 成果

### 1 優良品種の安定生産および拡大

品種	生産量 (t)		面積 (ha)	
	R5	R7	R5	R7
早味かん	23	21	2.1	2.3
北原早生	13	13	2.2	2.5
甘夏 ※前年産	122	127	7.6	8.2

### 2 園地流動化のための体制整備・強化

- 園地流動化件数 0件 (R5) → 1件 (40a) (R7)

### 3 若手生産者の経営力および栽培技術の向上

- 経営計画目標達成数 0戸 (R5) → 2戸 (R7)



若手生産者勉強会の様子

## 今後の取組

苗木マニュアルの配布による早期成園化や連年安定生産対策を重点的に支援します。また、園地流動化を促進するため、支援体制や仕組みを強化します。加えて、若手生産者に対する個別の経営分析等を通じ、経営目標の達成を支援します。

## 【8】 飼料高騰に耐える新しい酪農経営体の育成

～ サシバエ対策の普及と第三者継承者の経営安定 ～

### 要約

購入飼料の価格高騰に対応するため、耕畜連携による自給粗飼料の面積拡大、効率的な牛群改良のためのゲノミック評価の推進、牛のストレス軽減や疾病予防のためのサシバエ対策の普及に取り組みました。

その結果、自給粗飼料の面積は昨年度から17.8ha増加するとともに、7戸の酪農家がサシバエネット（商品名；ペルネット）を設置しました。ネットを設置した牛舎では、牛体上のサシバエ数が明らかに減少し、牛のストレス軽減が図られました。

第三者継承者に対しては、現状分析を元にした改善目標の設定支援を行うとともに、目標達成に向けた支援を行いました。その結果、経産牛1頭当たりの年間乳量が約900kg増加し、改善目標の1つを達成しました。

### 対象の概況（R5時点）

管内酪農家 35戸  
うち自給粗飼料生産農家 27戸  
第三者継承者 3戸

### 活動の内容

- 1 耕畜連携の推進
  - ・ 耕畜連携に係る会議 1回
  - ・ 害虫防除等啓発指導 2回
- 2 新しい取組の支援
  - ・ ゲノミック評価普及啓発巡回 4回
  - ・ 暑熱対策強化策啓発 2回
  - ・ ハエ対策巡回指導 1回
  - ・ 6次産業化支援 1回
- 3 第三者継承者の技術向上
  - ・ 現状分析を元にした目標の設定支援
  - ・ 目標達成にむけた巡回指導



サシバエ対策講習会

### 成果

- 1 耕畜連携の推進
  - ・ 自給粗飼料の拡大 17.8ha増加
- 2 新しい取組の支援
  - ・ サシバエネットを設置した農家数 0戸（R6） → 7戸（R7）
- 3 第三者継承者の技術向上
  - ・ 改善目標の一部を達成（経産牛1頭あたり年間乳量） 8,652kg（R6） → 9,519kg（R7）



設置が広がるサシバエネット

### 今後の取組

自給粗飼料の収量向上に加え、品質向上に向け、栽培・調製方法等の支援を行います。

第三者継承者に対しては、引続き目標達成に向けた支援を行います。

サシバエ対策として、サシバエネットの普及を図り、設置する農家数を増やします。

# 【9】肉用牛の生産力維持・強化

～ 「糸島推奨牛」の育成 ～

## 要約

JA糸島和牛部会は佐賀県中央家畜市場（多久市場）において一定の発育基準を上回る子牛を「糸島推奨牛」という呼称で有利販売を行っています。

近年の飼料費や資材費の高止まり等の情勢下、「糸島推奨牛」を1頭でも多く育成することは、所得確保につながる重要な課題となっています。

そのため、農場巡回調査や市場出荷調査による子牛の発育状況の確認と改善に向けた助言、部会研修会等で技術向上を図りました。その結果、「糸島推奨牛」率(%)はR5年度から9ポイント上昇しました。また、セリ価格は「糸島推奨牛」の方が平均して103千円高く販売できました。

## 対象の概況

JA糸島和牛部会 8戸  
繁殖雌牛飼養頭数 290頭

## 活動の内容

- 糸島和牛子牛産地基盤の維持
- ・農場巡回調査 14回
  - ・市場出荷調査 9回
  - ・部会研修会 1回
  - ・子牛栄養管理技術支援 2回
  - ・現状分析検討会 1回
  - ・視察研修 1回

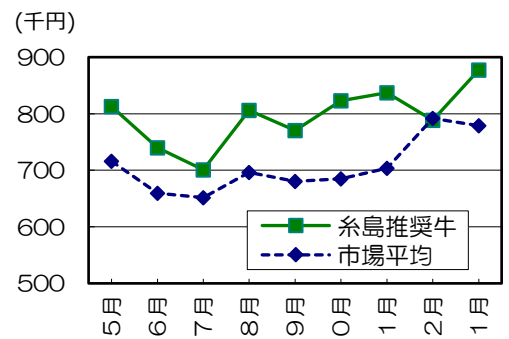


農場巡回調査の様子

## 成果

○糸島和牛子牛産地基盤の維持

- ・市場出荷頭数 89頭（うち糸島推奨牛53頭）
- ・糸島推奨牛率 51% (R5) → 60% (R7)
- ・多久市場セリ価格（税込み）  
糸島推奨牛 : 716千円  
糸島推奨牛以外の牛 : 604千円  
※1月市場までの結果
- ・去勢牛の糸島推奨牛と市場平均の価格推移（税込み）



## 今後の取組

引き続き、農場巡回調査や市場出荷調査による発育状況の分析や、マニュアルに基づいた飼養管理の支援を行い、発育良好な「糸島推奨牛」率の上昇を目指します。

### 【1】地域の農業振興について意見を交わす ～グリーンネット福岡で地区別意見交換会を開催～

グリーンネット福岡(会員45名)は、福岡地域の指導農業士、青年農業士、女性農村アドバイザー及びそのOBで構成している連絡協議会です。毎年、会員の資質向上等を目的に年2回の研修会を開催しており、令和7年7月31日に総会及び研修会を開催し、会員が一堂に集まりました。

研修会では、農業者と関係機関職員が福岡・糸島・筑紫の各地区に分かれ、それぞれの農業振興について意見交換を行いました。各地区ともに新規就農者、経営継承、労働力確保について活発な討議が展開され、会員からは「地域農業の課題について共有できて良かった」との声が聞かれました。



総会



地区別意見交換会

### 【2】JA筑紫管内の農業者が鳥獣害対策について学ぶ ～筑紫地区農業振興協議会 リーダー研修会を開催～

筑紫地区5市、JA筑紫、福岡普及指導センターで組織する筑紫地区農業振興協議会では、令和7年8月、「筑紫地区リーダー研修会」を開催し、筑紫地区の農業者126名が出席しました。

研修会では、近年、鳥獣被害が年々増加しており、被害防止への関心が高まっている背景から、講師に(株)野生鳥獣対策連携センターを招き対策を学びました。獣種ごとの特性を理解し、動物目線で鳥獣害対策をとることの重要性や箱わなを用いた捕獲、鳥獣の特徴的な行動を記録した動画を多数視聴するなど、出席者はその内容に引き込まれ、「実際の動画が大変参考になった」・「今後の取組について検討したい」・「引き続き鳥獣被害対策について勉強したい」といった声が多く聞かれました。



研修会の様子

### 【3】水稲高温耐性品種を新たに導入!!

～福岡県育成「恵つくし」の本領発揮～

近年、夏場の高温により、水稲の品質低下が顕著です。そこでJA福岡市管内では、令和4年に品種登録の出願が行われた高温耐性品種「恵つくし」を、令和7年に約50ha導入しました。導入に際しては市内4か所で栽培試験を行い、品種適性の把握を行いました。

令和7年産の水稲は、各地でいもち病の発生が目立ちましたが、耐病性のある「恵つくし」では、いもち病がほとんど発生せず、また、高温障害で発生する白未熟粒の発生が少ない等、約9割の「恵つくし」が1等に格付けされました。生産者における「恵つくし」の評価は高まり、令和8年産では、大幅な作付面積の拡大が見込まれます。



恵つくしの草姿



恵つくしの玄米

### 【4】大豆の収量増加を目指して

～JA筑紫管内での適期播種を逃さない取組～

大豆の収量確保には、適期に播種することが重要です。JA筑紫管内では、7月5日から7月20日までを適期播種の期間として推進しています。しかし、この時期は梅雨末期と重なることが多く、降雨により播種が遅れてしまうという問題があります。そこで令和7年度の大豆播種前講習会では、過去の気象データを基に、梅雨の晴れ間での適期播種のコツや、播種実施の可否の判断基準などについて示しました。さらに、JAは例年よりも資材配送を早めるなど、関係機関と連携して、適期播種に向けた取組を行いました。

その結果、昨年2割程度であった適期播種面積率が、8割ほどに向上しました。加えて、現地確認会等で病害虫の防除時期の判定を行い、適期防除を徹底したことで、被害も抑えられ、収量は昨年より増加する見込みとなっています。



現地確認会の様子



収穫間際の大豆

### 【5】糸島アスパラ部会、初の全戸巡回現地検討会を開催 ～部会員一丸となって栽培技術を学ぶ～

糸島アスパラガス部会では7月末に、初めて全戸を巡回する現地検討会を行いました。この検討会は部会の技術力・生産意欲向上のため、普及指導センターとJAが連携し企画・開催したものです。まず、普及指導センターから夏期の管理について説明した後、3地区に分かれ、生産者とJA担当者、普及指導員が全ほ場を巡回し、管理状況の確認、意見交換を行いました。生産者からは「普段行かないほ場を見ることで新たな気づきがあった」等の意見があり、生産意欲向上につながりました。

今後も、アスパラガスの生産力向上のための支援を続けてまいります。



現地検討会の様子

### 【6】再生リン酸活用肥料「e・green」の有効活用方法の検証 ～初期肥効の課題解決を目指して～

再生リン酸活用肥料「e・greenシリーズ」の「e・green(14-2-12)」はリン酸が過剰気味の花き圃場でコスト削減の対策として活用が期待されていましたが、使用した一部の生産者から初期の肥効が弱く、慣行肥料との代替が難しいとの声が寄せられました。そこで、普及指導センターは、初期の肥効を補うために、速効性肥料と組み合わせた肥料設計を行い、検証試験を行っています。

令和7年12月現在のところ、慣行区と比較して試験区は差のない生育をしており、試験実施農家の感触も現在のところ良好です。

今後は、試験結果をもとに、e・greenを使用する場合の有効な施肥設計を確立し、生産コストの削減に活かしていく予定です。



キングヨソウ試験圃場

### 【7】「シャインマスカット」栽培講座を開催！ ～新規導入者の栽培技術の早期定着・向上を目指して～

普及指導センターでは、糸島市と福岡市で「シャインマスカット」を新規導入した生産者の栽培技術の早期定着・向上を目的に、栽培講座を昨年度から開催しています。今年度は、全5回（開花前、開花後、収穫期、休眠期の管理、先進農家視察）の講座を開催しました。

講座では、資料説明や現地実演に加えて、スマート機器の“アイカメラ”を使って先進農家の作業視野を映すことで、実践的な管理方法を示しました。また、今年度からの新たな取組として、先進農家視察を実施しました。視察先農家からは、栽培面で意識していることに加えて、販売戦略などの経営面のアドバイスもいただきました。講座後のアンケートでは、「学んだことを早速実践したい」、「作業動画がわかりやすく参考になった」などの声が聞かれ、新規導入者の技術力、経営力の向上に繋がっています。



“アイカメラ”で撮影した作業動画を見る生産者



現地実演を行う普及指導員

### 【8】サシバエ防除対策の取組が拡大しています！ ～ハエのいない牛舎を目指して～

“サシバエ”は牛の体にとまり、血を吸うことにより牛に大きなストレスを与え、乳量などにも影響を及ぼすなど、酪農家の頭を悩ませてきました。また、昨年度発生したランピースキン病の伝播経路になったことから、より一層サシバエ対策の必要性が高まっています。

そこで、普及指導センターは関係機関と連携して、幼虫対策としてIGR剤を配布し散布支援をするとともに、成虫対策としてサシバエネット（ペルネットBK6）の設置を推進しました。

その結果、7戸の酪農家がサシバエネットを導入するなどの対策に取り組み、令和7年の夏から秋にかけてのサシバエは減少し、「牛へのストレスが減った」、「乳量も上がった」といった効果を実感する声が多く上がりました。



牛の脚にとまるサシバエ



サシバエネット設置

### 【9】第5回福岡県肉用種牛共進会にて最優秀賞を受賞！ ～糸島の和牛改良の成果を発揮～

令和7年11月29日、第5回福岡県肉用種牛共進会が開催されました。この大会は、県内の黒毛和種の育種改良や、繁殖農家の改良意欲の向上などを目的とした品評会です。県内から若雌1区(12～16ヶ月齢)に13頭、若雌2区(17～20ヶ月齢)に8頭が出品され、管内からは3名の生産者から6頭が出品されました。

1区において、糸島和牛改良組合の(株)挟間牧場の「しずひめ号」が、体の深みや幅、充実した腿などを評価され、最優秀賞を受賞しました。また2区においても、(株)挟間牧場の「まや号」が品位などを評価され、優秀賞1席を受賞しました。

前回大会でも糸島の和牛が最優秀賞を受賞しており、糸島の和牛改良における技術力の高さが評価されています。今後もさらなる改良に向けて支援していきます。



しずひめ号



表彰式

### 【10】大規模施設園芸の挑戦と展望 ～スマートグリーンハウスシンポジウムで高島拓さんが講演～

令和8年1月20日(水)、東京都で「令和7年度スマートグリーン展開推進(農林水産省補助事業)スマートグリーンハウスシンポジウム」が開催され、株式会社ひらくファーム代表の高島拓さん(糸島市)が「キュウリ専作大規模経営と今後の方向性」について講演されました。

講演ではご自身の経営理念や事業規模拡大の経緯が示されたほか、雇用者との円滑な関係構築に向けた具体的な取組を紹介されました。また、講演後は農水省の担当者や他の生産者とともにパネルディスカッションに臨まれ、これまでの経験からデータを活用して作業を最適化することや安定生産・安定出荷に取り組むことなど大規模施設園芸の課題と展望について熱く語られました。



講演される高島さん



パネルディスカッションの様子

### 【11】若い世代に食育について語る！

～県農業大学の学生80人に熱く講義～

令和7年11月21日、糸島市で学校給食やJA女性部活動で活躍されている榎木(ちしやき)節子さんが、県農業大学校に招かれ、学生80人を対象に食育に関する講義を行いました。

榎木さんは、学校給食生産者グループ「井田原有機農業栽培研究会」を発足された後、関係機関と連携し、安全で質の高い地元野菜を学校給食に供給するシステムを構築され、食育活動に尽力されてきました。また、コロナ禍では「フードパントリー(食品の無料配布)」による大学生等生活困窮者への食の支援活動を展開されてきました。

農大生は、榎木さんの経験談や食育への熱い想いを聴き、卒業後に就農する際の農業経営や地域参画における心構えについて質問していました。榎木さんも人との出会いを大切にして経営感覚を身に着けることの重要性などについて語り、農大生にとって貴重な講義となりました。



講演される榎木さん



榎木さんの話を聴く学生

### 【12】地域で活躍する先進女性農業経営者に学ぶ！

～女性農村アドバイザーの視察研修会を開催～

令和7年7月11日、管内女性農村アドバイザーの視察研修会として、筑紫野市の「合同会社三宅牧場まきば」に伺いました。

当日は、代表社員である三宅静恵さんにご案内いただき、実際に餅・おむすびなどを製造している加工所や、商品を販売している直売所を視察しました。参加者からは、6次化に取り組むきっかけ、雇用者の募集や育成方法、今後の展望等の質問が出され、三宅さんから丁寧に回答いただき、皆、熱心に聞き入っていました。

その後は、県農林業総合試験場に移動し、農業DX研究の最新情報についても学び、新たな知見を得ることができました。終始積極的な意見交換が行われ、自身の経営だけでなく地域農業について考える実り多い場となりました。



三宅牧場まきば(直売所)



三宅さんの話を聞く参加者

### 【13】魅力ある農業を次世代へつなぐ ～農事組合法人 三水うまいちの取組～

筑紫野市西小田地区の(農)三水うまいちは、水稻16ha、麦26ha、大豆8ha及び白ネギ(1.2ha)やアスパラガス(10a)など(数字は令和7年産)の園芸品目も栽培する、地域農業を支える主要な担い手です。同法人は高い栽培技術力を誇り、特に大豆では本県が開発した「部分浅耕—工程播種」をいち早く導入し、地域平均を大幅に上回る収量を維持しています。また、ドローン導入、ほ場の畦畔除去、水稻の乾田直播栽培など、作業の省力化にも積極的に取り組んでいます。

更に組織の後継者育成にも力を入れ、構成員の子弟2名が常時雇用となり、園芸品目の栽培責任者やドローンのオペレーターとして組織の中核を担っています。

こうした多様かつ先進的な取組から、(農)三水うまいちは、筑紫地域にとどまらず県内の集落営農組織のモデルとして高い評価を得ています。



(農)三水うまいちの構成員のみなさん



ドローン防除作業の様子

### 【14】柵(くぬぎ)みかんオーナー園 ～福岡市近郊で人気のみかんオーナー園の取組～

糸島市高祖地区では、9戸の園主が約7haで極早生および早生温州みかんの栽培を行い、「柵みかんオーナー園」を開園しています。同園では、収穫までの管理は園主が行い、オーナーは契約した樹のみかん全量を収穫して持ち帰ることができます。

このオーナー園は、昭和63年から始まっており、まもなく40年を迎える歴史ある取組です。園主の高品質なみかん生産に向けた努力のみならず、契約会や収穫祭など、園主とオーナーがふれあう機会を積極的に設けることで、根強いファンを獲得することに成功し、糸島市内や近郊の福岡市内などから、毎年数多くのオーナーが収穫に訪れています。

今年も10月11日の契約会から数多くのオーナーが来園し、みかん狩りや園主との交流を楽しみました。



収穫を楽しむオーナー



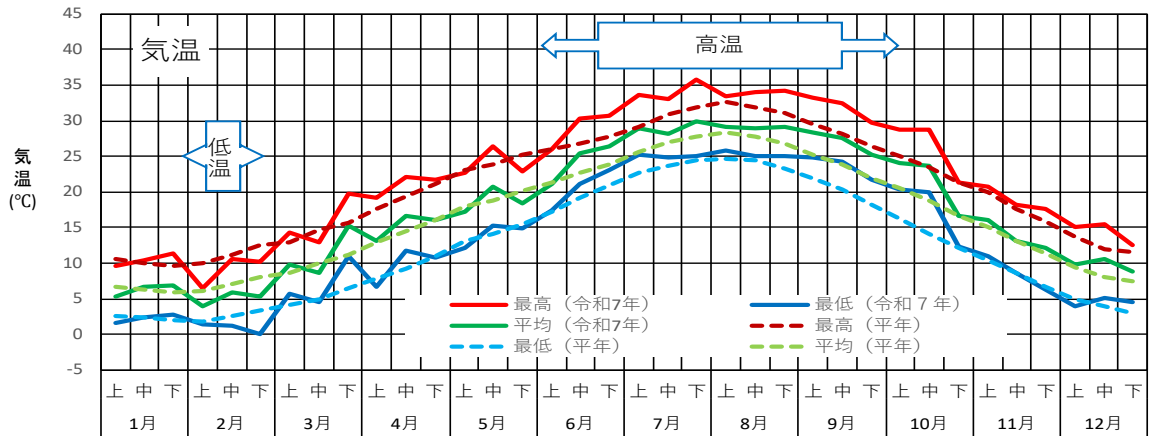
賑わう収穫祭の様子

# 3 資料一覧

## 【1】 令和7年の気象概況 —記録的に早い梅雨明け、異常高温や大雨—

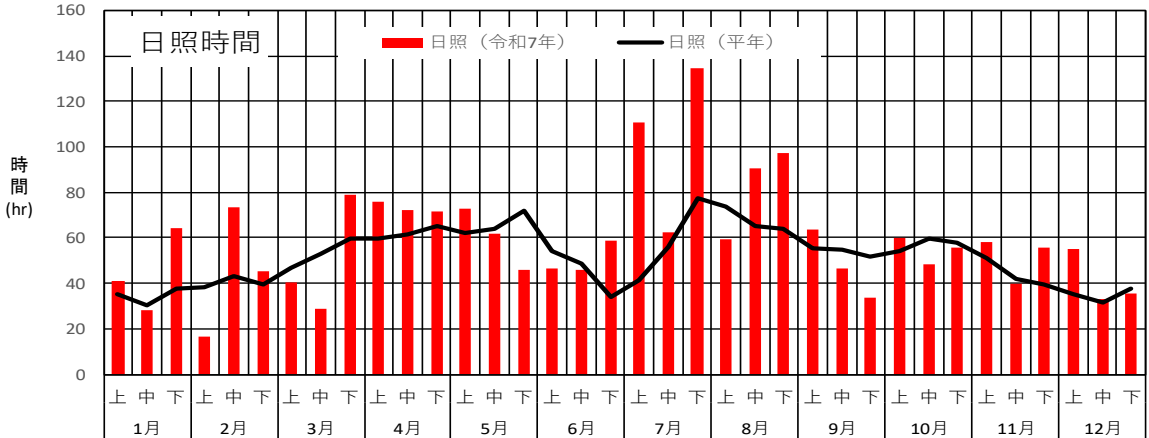
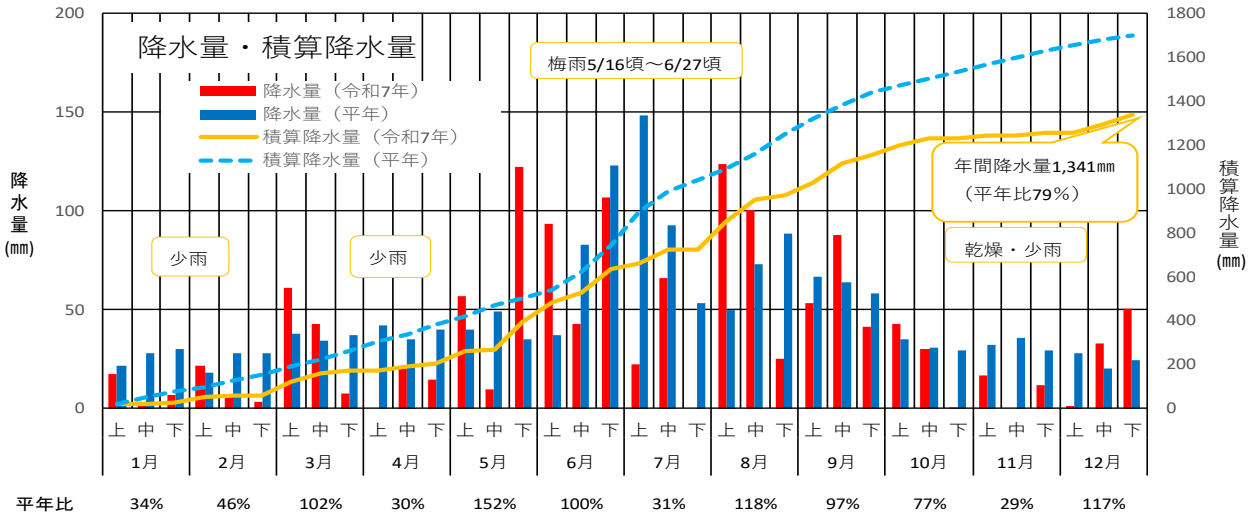
令和7年の平均気温は17.6℃（平年差+1.2℃）、降水量1,347mm（平年比79%）、日照時間2,106hr（同114%）で、総じて高温傾向で晴れの日が多く、降水量は少ない年でした。

時期別にみると、特に夏季に記録的に早い梅雨明けや、異常高温、8月9日からの豪雨など特徴的な気象がみられました。



平年差 (°C)

+0.1   -2.0   +1.4   +0.9   -0.3   +1.8   +2.2   +1.4   +3.3   +2.7   +0.6   +1.5



## 【2】令和7年度の主な展示ほの概要

係名	対象作物	課題名	設置場所	要約
水田農業	水稲	環境に優しい肥料の現地適応性	福岡市	マイクロプラスチックを含まない基肥一発肥料として、肥料メーカーと試作した「e-IBCDU化成」は、肥効期間が短く推移したため、穂長や籾の充実が不十分で慣行より収量が少なくなる傾向があり、今後の改善が必要である。
水田農業	水稲	酒米肥料の現地適応性検討	糸島市	夏季の高温により肥効のタイミングが前進化しているため、窒素成分が遅効性である有機質肥料の割合を増やした新規肥料を試験した。その結果、前年は粒の充実がよくなり増収したが、本年は収量に差がなかった。過剰分けつにより試験区で籾数過多となったことが要因だと考えられる。
水田農業	水稲	水稲の高温対策肥料の検討	筑紫野市	水稲の高温対策として、慣行肥料より肥効期間の長い被覆肥料を用いて、収量・品質への影響を検討した。その結果、収量や成熟期間の差が確認できなかったため、来年度は更に肥効期間が長い肥料で試験を行う。
野菜係	シュンギク	夏季高温対策	福岡市	屋根散水によるハウス内温度およびシュンギクの収量・品質に及ぼす影響を検討した。その結果、日中のハウス内温度は、屋根散水区の方が最大約7℃低かった。また、収量は屋根散水区の方が約1.5倍高く、草丈やSPAD値においても有意差が認められた。
花き係	クルクマ	花き高温対策	糸島市	遮熱資材（青天張）を利用して、クルクマの葉ヤケ対策を検討した。慣行と比較して、生育に差はなかった。
果樹係	カンキツ	温州みかん、中晩柑の日焼け軽減対策	糸島市	「早味かん」、「せとか」において、サンテ被覆や葉面散布剤「サビケア」の使用による日焼け果対策を検討した。その結果、既存のカルシウム剤散布との間に、大きな効果の差は確認されなかった。今後は、樹形改造等、他の対策の検討を実施する。

係名	対象作物	課題名	設置場所	要約
果樹	ブドウ	遮熱塗布剤の天井ビニル塗布による着色改善効果の検証	糸島市	近年、夏季の高温の影響により、黒系や赤系ブドウの着色不良に伴う等級の低下がみられるため、遮熱資材の天井ビニル塗布処理を行ったが、ブドウの着色改善効果は判然としなかった。
果樹	ブドウ	着色向上資材の葉面散布による着色改善効果の検証	糸島市	近年、夏季の高温の影響により、黒系や赤系ブドウの着色不良に伴う等級の低下がみられるため、葉面散布剤「タフプラントカラー」の処理によるブドウの着色改善効果を検証した。その結果、一定の着色向上および経営改善の効果が確認された。
果樹	ブドウ	シャインマスカット幼木における開花前植調剤処理による果粒肥大効果の検証	福岡市、糸島市	樹勢や栽培管理が適正な幼木園で開花前にホルクロルフェニユロン2ppmを散布することで、果粒肥大の向上および経営改善効果が確認された。
果樹	ブドウ	気象観測装置の設置による気象データの活用	福岡市	金武地区のブドウ園地周辺に気象観測装置を設置し、気象データを収集した。今後、生育や病害虫の発生予測アプリとして実装し、現地での管理作業への活用を図る。

### 【3】令和7年度 普及指導センター現地活動情報一覧

No.	表題	執筆係名
1	「シャインマスカット」栽培講座を開催！ ～新規導入者の栽培技術の定着・向上を目指して～	果樹
2	JA糸島和牛部会が半年ぶりに子牛市場に出荷 ～ランピースキン病の発生を乗り越えて～	畜産
3	吸血昆虫サシバエの撲滅を目指して ～ふくおか県酪協女性部で講習会を開催～	畜産
4	糸島のクルクマが出荷開始 ～JA糸島クルクマ部会が現地検討会を開催～	花き
5	女性農業者のスキルアップと仲間づくりを目指して ～管内の若手女性農業者組織「Wonderful life」の総会開催を支援～	地域
6	糸島地域で水稻の育苗現地検討会を実施 ～良質な苗づくりをしよう！～	水田農業
7	第1回イチゴ栽培基礎講座を開催 ～炭そ病対策と高収量者の管理について学ぶ～	野菜
8	令和7年度「ふくおか就農基礎講座」開講 ～新規就農者等の知識習得を支援～	地域
9	JA福岡市ほおずき部会出荷開始 ～出荷開始に合わせて目合わせ会を開催～	花き
10	アスパラガス、夏芽の出荷が本格化 ～JA福岡市アスパラガス部会目合わせ会を開催～	野菜
11	「元気つくし」の現地講習会を糸島で開催！ ～良質な元気つくしの栽培に向けて～	水田農業
12	福岡市金武の観光ぶどう直売所がオープン ～JA福岡市金武観光ぶどう部会の販売始まる～	果樹
13	糸島ブランドブドウ『あま伊都』の試食宣伝会を開催！ ～更なる認知度向上と消費拡大を目指して～	果樹
14	地域で活躍する先進女性農業経営者に学ぶ！ ～女性農村アドバイザーの視察研修会を開催～	地域
15	水稻高温耐性品種の本領発揮 ～「早期恵つくし」の収穫、農産物検査はじまる～	水田農業
16	カンキツ日焼け対策や最新の除草機械について学ぶ！ ～JA糸島柑橘部会の若手生産者が視察研修を開催～	果樹
17	糸島の土地利用型担い手が先進経営に学ぶ ～効率的な大規模経営を目指して～	水田農業
18	JA糸島で『短期雇用導入研修会』を開催 ～短期雇用導入に必要な知識や方法を学ぶ～	果樹

No.	表題	執筆係名
19	高品質なキュウリの生産と出荷を目指して ～JA糸島胡瓜部会栽培講習会および目合せ会を開催～	野菜
20	「ふくおか就農基礎講座」現地研修会を開催！ ～新規就農者が先輩農業者のほ場で学ぶ～	地域
21	地域を担う若手農業者がビジネスプランを発表 ～経営計画策定講座で若い農業者の経営力強化へ～	地域
22	博多の伝統野菜「かつお菜」、順調に生育 ～JA福岡市かつお菜生産者がほ場巡回を実施～	野菜
23	農業経営の多角化について学ぶ！ ～管内女性農業者視察研修会を開催～	地域
24	夏季の高温とハモグリバエへの対策について学ぶ ～JA福岡市春菊部会生産研修会を開催～	野菜
25	糸島で米・麦・大豆の肥料・農薬研修会を実施！ ～効果的な資材活用に向けて～	水田農業
26	福岡県青年農業士会の相互情報交換会を開催 ～青年農業士が先進的な経営者から実務を学ぶ～	地域
27	糸島でカンキツのドローン防除現地実証会を開催 ～果樹におけるスマート農機の活用を検討～	果樹
28	地域担い手の持続的な経営安定に向けて ～糸島地域の土地利用型農業の担い手支援～	水田農業
29	地域農業のスマート化を加速！ ～省力化をめざした農業用ドローン活用推進に向けた取組～	水田農業
30	博多蕾菜（つぼみな）出荷開始 ～春の訪れを告げる味わいが食卓へ～	野菜
31	集落営農組織の将来を考える ～管内集落営農組織の役員等が先進事例を学ぶ～	水田農業

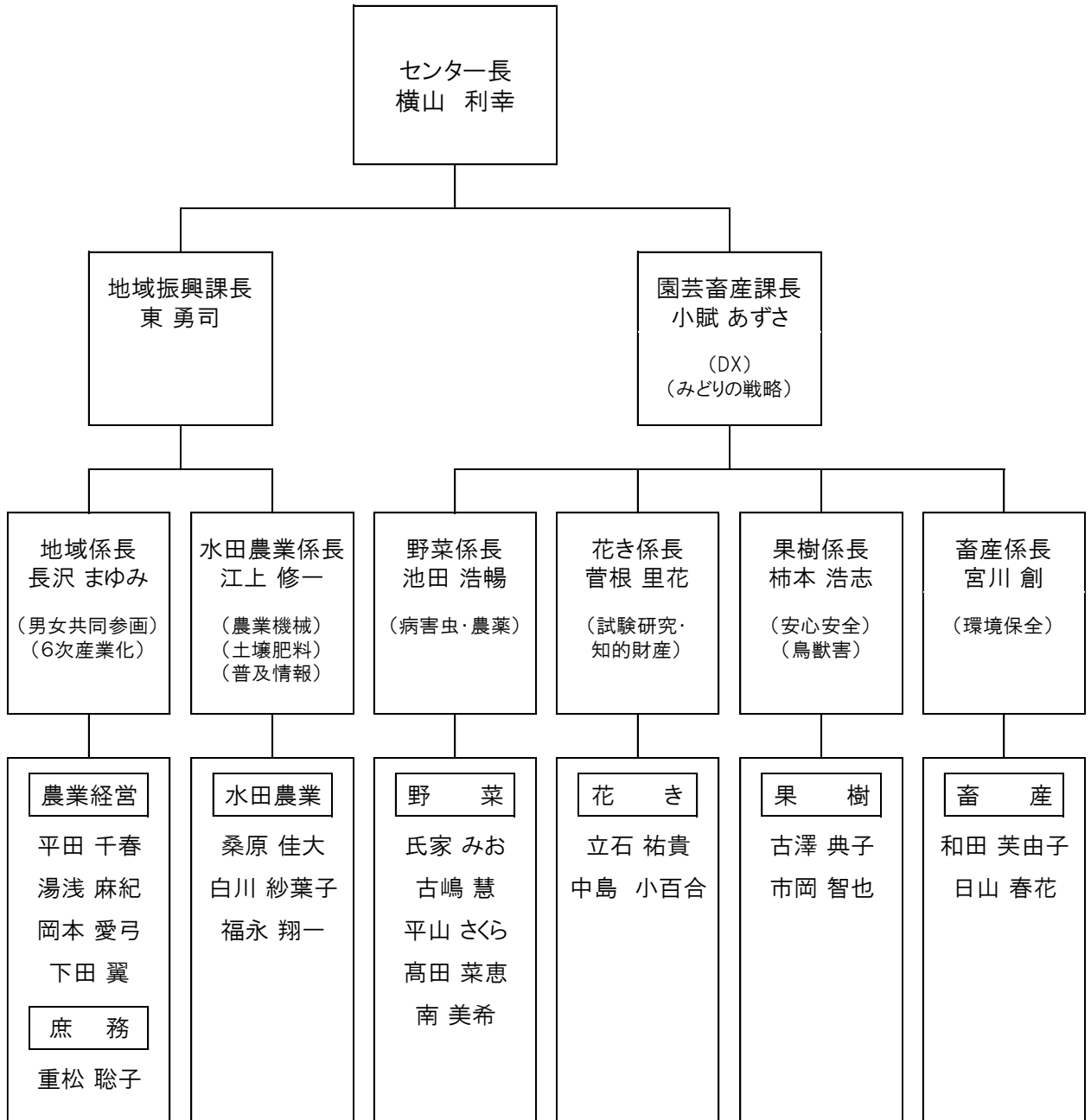
令和8年2月末現在

「活動情報」の内容は、福岡県ホームページの出先機関（福岡普及指導センター）に掲載しています。

#### 【4】令和7年度 表彰事業実績（国、県）

表彰事業名	部門（品目）	賞区分	受賞者名	市町村
福岡花き品評会	技術・ほ場の部 (夏秋咲きギク露地部門)	農産局長賞	樗木 正信	糸島市
	産物の部 (金魚草)	九州農政局長賞	宗 興成	福岡市
	技術・ほ場の部 (夏秋咲きギク露地部門)	福岡県知事賞	中原 敏治	糸島市
福岡県 肉用種牛共進会	若雌1区	最優秀賞	(株) 挾間牧場	糸島市
	若雌2区	優秀賞1席	(株) 挾間牧場	糸島市
全日本 ホルスタイン共進会	第10部	1等賞6席	中村毅	福岡市

## 【5】普及指導センターの活動体制



※畜産係は広域活動(北筑前普及指導センター管内を含む)

※( )は担当窓口

令和7年4月8日現在

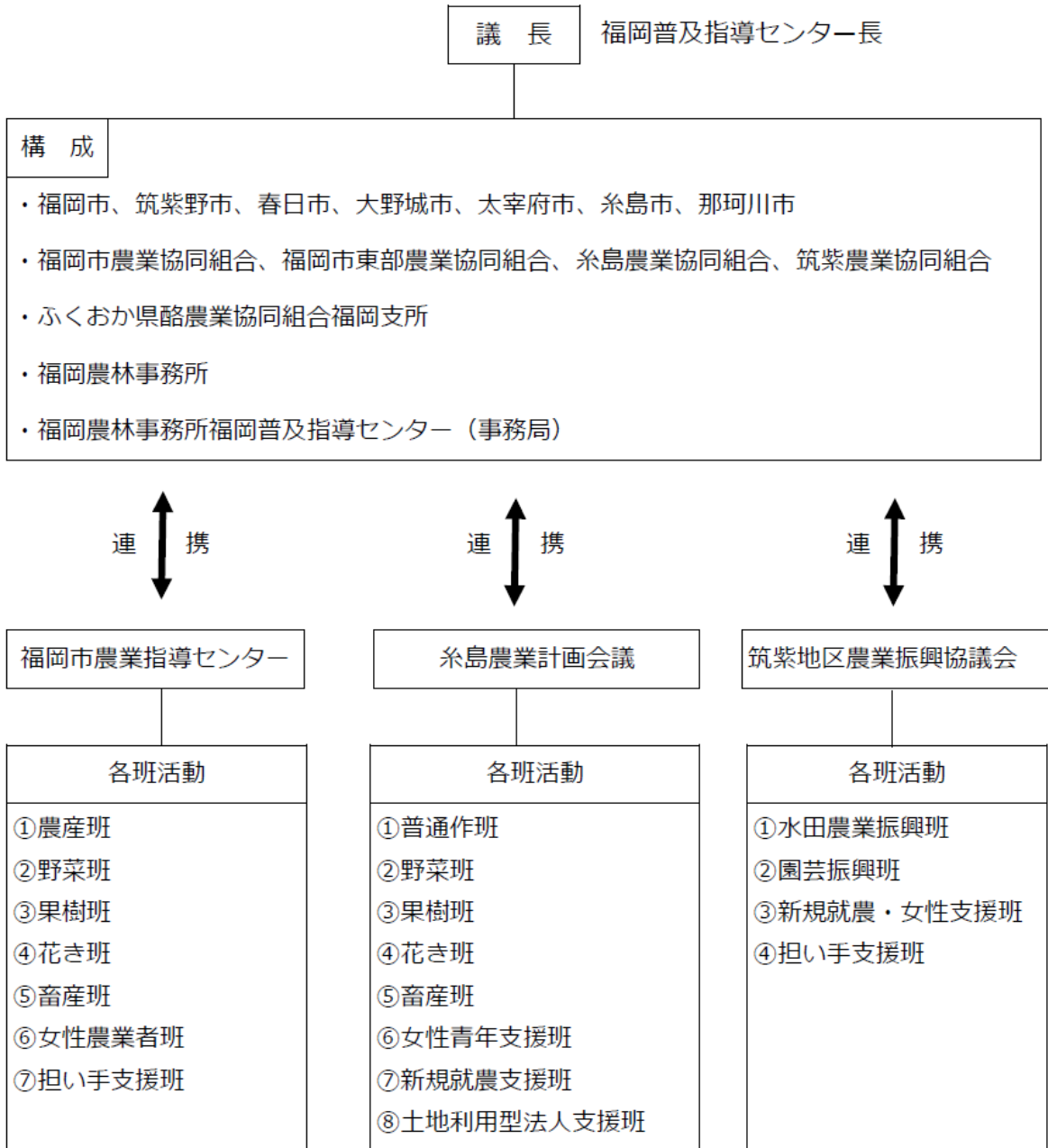
## 【6】普及事業推進協力体制

### 福岡地域普及活動推進会議

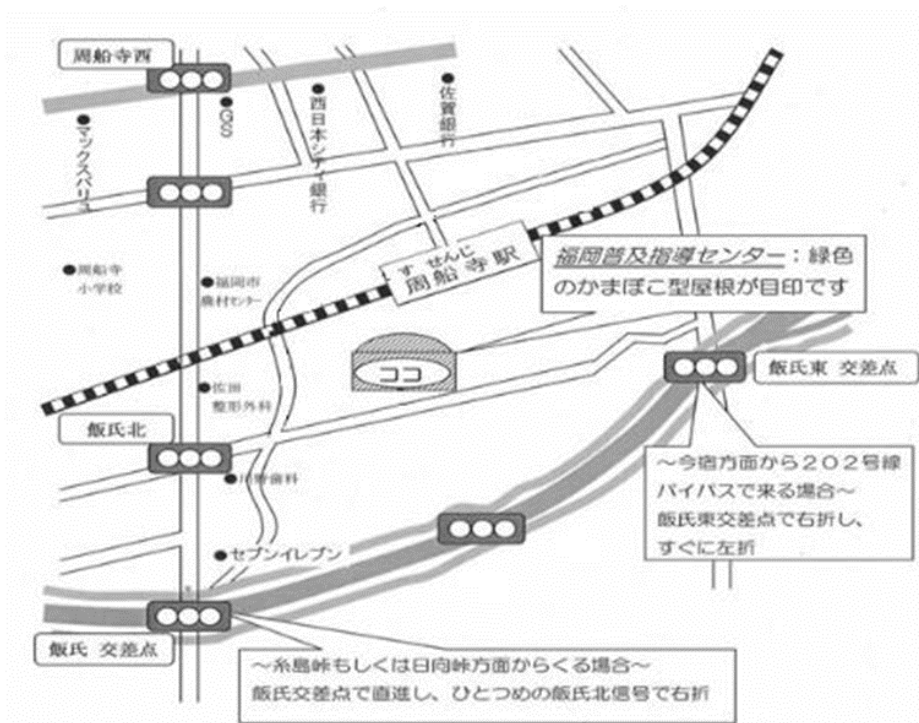
#### 目的

農業・農村の厳しい現状を捉え、新しい福岡地域の農業・農村の活性化を図るため、農業者のニーズを適確に把握し関係機関と連携して、円滑かつ効率的な普及指導活動を推進する。

#### 構成及び組織



## 福岡普及指導センターへのアクセス



### 福岡県行政資料

分類番号 PA	所属コード 4703119
登録年度 07	登録番号 0001

## 福岡県福岡農林事務所 福岡普及指導センター

〒819-0371 福岡県福岡市西区飯氏902-1

TEL: 092-806-3400

FAX: 092-806-3367

HP: <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/fukuoka-fukyusidouontahtml.html>

E-mail: [fukuoka-dlc@pref.fukuoka.lg.jp](mailto:fukuoka-dlc@pref.fukuoka.lg.jp)

